

研 究

保育士が看護師に期待する専門性

—保育施設における乳幼児の健康問題を支援する小児看護の役割を踏まえて—

山田 恵子¹⁾, 山田 知子²⁾, 大村 政生³⁾
清水いづみ²⁾, 畑中めぐみ⁴⁾

〔論文要旨〕

保育施設における子どもの健康問題について、看護師にどのような専門性が期待されているかを明らかにすることを目的とし、2010年5～7月、愛知県内の44施設で働く保育士634名を対象に自由記載での自記式質問紙調査を実施した。対象者262名（回収率41.3%）であり、保育所看護師配置状況は「いない」とした者が208名（79.4%）、配置希望者は197名（75.2%）であった。期待する専門性は、【園児の健康管理における判断と対応】、【看護師配置による安心】、【施設の安全管理と連携】、【保護者への対応】、【園児の健康管理における指導】、【保育士のメンタルサポート】の6つに類型化された。その結果、保育所看護師は数が少なく、配置の不均衡が示されるとともに、期待される存在であるが、多岐に及ぶ役割を明確に示し、普及と専門職としての連携が必要であると考えられた。

Key words : 看護師, 保育士, 健康管理, 連携, 専門性

I. 背景と目的

近年における家族形態や就労形態の多様化、少子化の影響などにより、保育サービスに関する課題が山積し、その変革が求められている¹⁾。待機児童数は、減少しているものの、保育所を利用する子どもの数は、増加し続け、平成25～26年では4.7万人増となっており²⁾、就学前の子どもたちが生活する場として、広く利用されていることがうかがえる。

子どもの死因をみると、その成長発達過程の特徴から、不慮の事故が死因順位の上位を占める³⁾。子どもの安全性が確保された場所でなければならない保育施設においても、不慮の事故として窒息や乳幼児突然死症候群（Sudden Infant Death Syndrome : SIDS）による死亡事案が報告されている^{4,5)}。このような現状を鑑みると、子どものいのちを守るためには、保育施

設のなお一層の教育も含めた安全対策が必要である。

しかし、保育士にとって、子どものいのちの危機的状況を適切に判断し応急手当や救命処置を行うことや、それらに関して主体的な学習を進めることには、限界があり、看護職との連携が重要であると考えられる。保育所看護師の存在は、最も身近であるが、その充足率は低く、主に保育の補完がその役割となっている現状では、専門職としての主体性を十分に発揮されていないことが指摘されている⁶⁾。

以上のことから、保育所への需要がますます高まる中、看護師の役割は、子どもの健康問題に関連する多岐な範囲に及ぶため、いのちを守るための事故発生時の対応や職員への教育を含む安全管理についても、保育士が看護師に期待する内容を、具体的に明らかにすることが、両者の連携を強化するうえでも重要であると考えられる。先行研究として、保育所看護師への期

The Specialties Expected of Nurses by the Nursery School's Staff

〔2855〕

— Based on the Role of the Child Health Nursing Insupporting the Health of Children in Nursery School — 受付 16. 7. 29

Keiko YAMADA, Tomoko YAMADA, Masaki OMURA, Izumi SHIMIZU, Megumi HATANAKA

採用 17. 7. 25

1) 同朋大学社会福祉学部社会福祉学科子ども学専攻（看護師 / 研究職）

2) 中部大学生命健康科学部（看護師 / 研究職）

3) 修文大学看護学部（看護師 / 研究職）

4) 名古屋大学医学研究科看護学専攻博士後期課程（看護師）

待や業務を示したものはあるが、看護師への支援に限局していたり⁷⁾、障害児クラスを対象にしたものであり⁸⁾、保育士が期待する看護師の専門性や役割について一般化できる内容を示す研究がさらに必要である。それらが明らかになれば、今後、看護師が保育所での専門性を発揮し、保育士と役割の明確化や共有・連携を図ることで子どもの健康管理について協働で取り組み、安全管理の標準化につながる事が可能となり、死亡事案の減少をも期待することができる。

そこで、本研究では、保育施設における子どもの健康問題について、看護師にどのような専門性が期待されているかを明らかにすることを目的とした。

II. 対象と方法

1. 対象および期間

愛知県内の2市1町に所在する公立および公設民営保育所44施設で働く保育士634名を対象とした。本研究の目的である保育士の期待する看護師の専門性であるため、その現状を把握するためにも、対象者の選定基準や除外基準は、特に設けなかった。調査期間は、2010年5～7月とした。

2. 調査方法

対象者に、保育士の期待する看護師の専門性について、自記式質問紙調査を実施した。調査項目は、対象者の基本情報（性別、年齢、最終学歴、保育士としての経験年数など）8項目、看護師との連携に関する状況として、看護師の配置の有無や勤務状況、看護師の配置への希望の有無など5項目を設定した。また、保育所看護師に期待する専門性については、自由記述欄を設定した。

調査票の配付は、対象となる保育士の勤務する保育所の長に対し、対象となる各保育士へ説明文書とともに調査用紙と回収用の切手付封筒を、手渡しにて配布してもらえよう依頼し、回収は、対象者本人の投函による郵送法とした。

3. 分析方法

保育士が看護師に期待する役割を、より詳細に把握するため、自由記述の内容を精読し、「看護師に期待する専門性」について述べられている単語あるいは文節について、ありのままの文章を切片化して、コード化し、意味内容の類似性から類型化した後、テーマを

研究者自身が命名したうえで、その単語の出現数を算出した。なお、類型化の際に、内的妥当性に配慮し、小児看護学の専門家からなる共同研究者間で、討議を重ね、最も適する言葉を選択したうえで、最終的な言葉を決定した。さらに、類型化の作業は、1回で終了させず、複数回の作業を経て、信憑性・確実性を高めるようにした。

4. 倫理的配慮

調査にあたり、対象となる保育士の勤務する保育所を管轄する市町村などの関係部署および各施設の長に、研究の主旨、参加による自由意思の尊重、匿名性確保、協力撤回の自由、回答と回収をもって同意とする旨などを文書および面談による説明を行い、承諾を得た後、対象となる各保育士へ文書による同様の説明を行った。なお、本研究は、愛知医科大学看護学部倫理委員会の承認（承認番号205平成22年3月16日付）を得て行った。

III. 結果

1. 対象者の属性

回答を得た対象者262名（回収率41.3%）の内訳は、性別が女性251名（95.8%）、男性9名（3.4%）であり、ほとんどを女性が占めた。平均年齢（±SD）は39.6（±12.0）歳であり、分布は20～62歳までの二峰性を示していた。最終学歴においては、短期大学が174名（66.4%）と半数以上を占め、次に4年制大学39名（14.9%）、専門学校33名（12.6%）、その他13名（5.0%）であった。保育士経験年数（±SD）は12.8（±10.4）年であり、5年未満は、65名（24.8%）であった。

2. 保育所看護師の配置の現状と保育士の希望

保育所看護師の配置の現状と保育士の希望の内訳について、表1に示した。現在の保育所看護師配置状況は、「いない」と回答した者が208名（79.4%）と最も多かった。看護師の配置を希望する者は、197名（75.2%）であったが、そのうち、看護師の配置を「いない」と回答した者の方が、「いる」とした者よりも、3倍以上の146名（55.7%）となった。また、看護師の配置を「いる」と回答した者のうち、看護師の配置を希望しない者はいなかったが、配置を「いない」と回答した者のうち、60名（22.9%）が配置を希望しない、またはどちらでもないと回答した。

表1 保育所看護師の現在の配置の現状と配置希望の内訳

		保育所看護師の希望									
		希望する		希望しない		どちらでもない		無回答		計	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
看護師	いる	45	17.2	0	0.0	1	0.4	0	0.0	46	17.6
	いない	146	55.7	13	5.0	47	17.9	2	0.8	208	79.4
	無回答	6	2.3	0	0.0	1	0.4	1	0.4	8	3.1
計		197	75.2	13	5.0	49	18.7	3	1.1	262	100.0

%は全体数に対する割合

表2 保育所看護師の現在の配置における勤務形態と雇用形態の内訳

雇用形態	勤務形態						計	
	常勤		常勤ではない		不明または無回答		n	%
	n	%	n	%	n	%	n	%
常駐	13	28.3	5	10.9	2	4.3	20	43.5
常駐ではない	8	17.4	9	19.6	0	0.0	17	37.0
不明または無回答	4	8.7	0	0.0	5	10.9	9	19.6
計	25	54.3	14	30.4	7	15.2	46	100.0

%は全体数に対する割合

さらに、看護師の配置があるとした46名について、勤務形態と雇用形態の内訳を表2に示した。20名(43.5%)は常駐であり、うち13名(28.3%)が常勤であった。また、看護師が常駐ではなく常勤であると回答した者は8名(17.4%)、常駐ではあるが常勤ではないと回答した者は5名(10.9%)であった。

3. 保育所看護師に期待する専門性

保育所看護師に期待する専門性について、表3に示した。保育所看護師に期待する専門性について、自由記述内容を分析した結果、108のコードが出現した。そのうち、看護師配置の制度化や病児保育の設置など看護師の専門性や役割と直接的な関係がないと思われるもの29コードを整理したうえで、意味内容の類似性から整理したところ、53コードを抽出し、さらに6つに類型化することができた。それぞれ、【園児の健康管理における判断と対応】、【看護師配置による安心】、【施設の安全管理と連携】、【保護者への対応】、【園児の健康管理における指導】、【保育士のメンタルサポート】と命名した。なお、【看護師配置による安心】という命名は、あらゆるコードの意味を包含すると思われるが、自由記述内容に「看護師配置による安心」と書かれていたものを集計したものである。本調査では、その理由や内容の記載を求めているため、自由記述内容の言葉のまま命名することとした。

最も多く出現したものは、【園児の健康管理における判断と対応】であり、【看護師配置による安心】、【施

設の安全管理と連携】、【保護者への対応】が、ほぼ同じであった。一方、【園児の健康管理における指導】は少なく、特に【保育士のメンタルサポート】は、最も少なかった。

各コードをみると、【園児の健康管理における判断と対応】に関連するものとして、病気や怪我の対応、大きな怪我や事故への対応が多かった。具体的には、「薬を飲ませられない保護者がいるため指導してほしい」などの意見もみられた。【看護師配置による安心】に関連するものとして、「一次救命処置など講習を受けているが自信がない」、「いざという時不安、看護師がいたら安心」などの要望がみられた。【保護者への対応】に関連するものとして、「病気や怪我について看護師が説明することで保護者の理解も得られやすい」、「季節の病気についての保護者への説明」などの要望がみられた。

IV. 考 察

1. 保育所看護師の存在の少なさ

本研究では、保育施設における子どもの健康問題について、看護師にどのような専門性が期待されているかを明らかにすることを目的とし、調査を行った。その結果、保育所看護師の配置が非常に少なく、某県内の保育所看護職者の充足率が19.7%であると示した木村らの報告と酷似していた⁶⁾。一方で、多くの保育士がその配置を希望しており、現状と保育士たちの思いの齟齬が示された。

表3 保育所看護師に期待する専門性に関する自由記述の内容の類型

命名	コード	出現数	出現数の合計		
園児の健康管理における判断と対応	病気や怪我の対応	6	35		
	大きな怪我や事故への対応	6			
	病児への対応	5			
	病気, 怪我への助言	3			
	アレルギー児への対応	2			
	病気や事故(窒息と誤嚥)の対応	1			
	緊急時の適切な対応	1			
	事故発生時の迅速な対応	1			
	事故時の適切な対応	1			
	怪我に対する対応の判断(見極め)	1			
	怪我の病院受診の判断	1			
	事故や怪我発生時の指示	1			
	看護師との連携(怪我, 事故への判断や対応)	1			
	感染症の初期判断	1			
	感染症の判断に関する助言	1			
	巡回看護師からの助言	1			
	慢性疾患を抱える児の対応	1			
	子どもの健康管理	1			
	看護師配置による安心	看護師配置による安心		10	13
		看護師配置による安心(怪我, 病気)		1	
看護師配置による安心(怪我, 事故への判断や対応)		1			
看護師配置(常勤)による安心		1			
施設の安全管理と連携	園の医療品全般の管理等	1	12		
	安全管理の見直し	1			
	園児の健康と安全に関する連携	1			
	協働的な立場での医療的知識に基づいた職員指導	1			
	協働的な立場での医療的知識に基づいた子どもへの対応	1			
	事故発生時の自信のなさ	1			
	事故発生時の不安	1			
	救命処置に対する不安	1			
	AEDの実技体験の機会が欲しい	1			
	いざという時の自信をつける機会がない	1			
	地域の相談窓口	1			
	危機管理の共通理解が大事(看護師不在の現状)	1			
保護者への対応	保護者への説明	1	10		
	発達上の留意点を職員・保護者に指導	1			
	保護者が納得する説明(怪我や病気)	1			
	保護者への啓蒙	1			
	保護者への子育て支援	1			
	保護者への対応	1			
	保護者への指導(病児の登園について)	1			
	保護者への指導(家庭での事故予防)	1			
	保護者への指導(子育て)	1			
	看護師配置による保護者の安心	1			
園児の健康管理における指導	病気の予防指導	1	7		
	病気や怪我の職員指導	1			
	小児の感染症についての見分け方	1			
	感染症に関する指導	1			
	傷の洗い方の指導	1			
	健康管理への指示	1			
	危険に対する話題提供	1			
保育士のメンタルサポート	相談相手	1	2		
	保育士のメンタルサポート	1			

児童福祉法第45条では、看護師または保健師を1人配置または配置するよう努めることとされている。しかし、本研究において、約80%の保育士が、保育所看護師が「いない」と回答したうえ、約75%が看護師の配置を希望しているという結果から、保育所看護師の配置の現状については、満足できていないという認識であることがうかがえた。さらには、保育所単位での看護師数の明確な配置基準はなく、本研究の結果からも、常駐であるかどうかという勤務形態が必ずしも常勤・非常勤といった雇用形態とは一致していないことが示され、配置の状況には格差が生じていることがうかがえた。これは、看護師が常勤であっても複数の保育所を兼任している場合もあり、必ずしも常駐とは限らないという現状の可能性も示された。

このような現状に対しては、保育所ごとにマンパワーにより補填するという限定的な対策ではなく、保育所間での協力体制を強化し、その中に子どもの健康管理を位置づけることが重要であると考え。国においても、平成20年の保育所関係の予算に含まれていた看護師配置という項目は、平成22年には看護師との連携の部分が包含され、保育所が個別対応するよりも、保育所全体を包括する方向へ視点が拡大したことが示されている⁹⁾。

本研究の結果により、保育所看護師の存在の少なさと配置状況の不均衡が示されたことから、保育所間や看護師との協力や連携を強化し、地域全体で子どもの健康管理に関する協力体制の再構築が重要であると考え。現在、進められている地域包括ケアシステムは高齢者が対象であり、この中に将来的に高齢者となる子どもも含めた地域でのケアシステムを構築することを提言したい。

2. 保育施設における看護師に期待されている役割

本研究の結果から、保育所や保育士にとって、保育所看護師は期待されている存在であることが示された。しかし、本研究の結果において、約20%の保育士は、看護師配置に対し消極的な意見を持っていることも明らかとなった。これらは、一部の保育士にとっては、看護師の存在や専門性の認知度が、必ずしも高い可能性や、現状では安全対策や事故発生時に、看護師が遭遇する機会が少ない可能性も示唆された。また、子どものいのちを守る活動から、子ども一人ひとりの健康を管理するという積極的な活動へと発展させ

る必要があるが、保育士らが看護師に期待するものとして、子どものいのちに関わる内容（子どもの健康管理や判断など）が高いうえ、その専門性を活かした指導も少なからず包含していることが示された。看護師数や看護師の常駐の有無にかかわらず、現実的には、保育士は乳幼児の健康状態の異変時の初期対応を迫られることも多い。しかし、本研究の結果からも、保育士が園児の健康管理における判断と対応を看護師に求めており、標準的な初期対応などを行った後、専門職へ円滑に引き継げるよう、保育士らへ支援することも、看護師の役割といえる。また、成長・発達の視点や、影響要因として、身体的のみならず、精神的側面や家庭環境なども含む社会的側面と健康レベルという多角的な視点をふまえた、日常生活の援助者である看護師の専門性への期待を意味すると考えられる。

今後、保育所における看護師としての課題は、保育所や職場という物理的環境を越え、専門職としての仕事を自ら創出し、関連職種や組織に周知し実践するという役割であろう。子どものいのちに関わる内容や、乳幼児の健康状態の異変時の初期対応については、ジェネラリスト・スペシャリストとしての看護師それぞれの役割を、看護師間で相互理解し、連携することも重要である。平成8年から始まった認定看護師や、全国で228名となっている小児救急看護認定看護師についても¹⁰⁾、積極的な活用の促進を期待したい。例えば、小児救急看護認定看護師の役割の1つに、指導や相談機能が掲げられている¹¹⁾。看護師の中で、役割を分断するのではなく、このような専門性の高い看護師を中心とした支援体制の整備を、保育所看護師の充足と合わせて推進されることが、乳幼児の健康問題を支援するうえで、より効果的であると考え。

そして、保育所看護師自身も、専門性のより高い看護師らと連携を図ることができるようになれば、その役割をなお一層発揮することが期待される。このように、保育施設における看護師に関連する体制や環境整備の推進が求められる。野間らは、小児科医による保護者や保育士に対する子どもの事故防止の啓発や教育の積極的な実施が重要としているが¹²⁾、保育所看護師や小児救急看護認定看護師のような専門性の高い看護師らも、医師とより密接な連携を働きかけていく必要がある。前項でも述べたように、ますます地域保健・地域医療への需要が高まる中、高齢者へのサービスに限定せず、小児医療や保育分野においても、子ども

の健康問題が適切に判断され、対応されるための人的資源の確保も含めたシステム構築への着手が重要であり、看護職が専門職としての連携を積極的に推進していくことが重要であろう。

本研究の目的である保育施設における子どもの健康問題について、看護師にどのような専門性が期待されているか、今回は、結果を得ることができたと考える。しかし、本研究の限界と課題として、本研究で選択した保育所は限定された地域であったことや、自由記述内容の少なかった項目やその理由までは求めていなかったことから、今後はさらに別の地域あるいは対象施設や対象者の数を増やすなど追加調査を重ねて、より詳細な期待の内容を把握するとともに、一般化を図ることが必要である。

V. 結 論

本研究では、保育施設における子どもの健康問題について、看護師にどのような専門性が期待されているかを明らかにすることを目的とし、保育士634名を対象とした自記式質問紙調査を実施した。その結果、対象者262名（回収率41.3%）のうち、保育所看護師配置が「いない」と回答した者が208名（79.4%）と最も多く、看護師配置の希望者は、197名（75.2%）であった。保育所看護師に期待する専門性については、意味内容の類似性から、【園児の健康管理における判断と対応】、【看護師配置による安心】、【施設の安全管理と連携】、【保護者への対応】、【園児の健康管理における指導】、【保育士のメンタルサポート】の6つに類型化された。これらの結果より、保育所看護師の数が少なく、また不均衡な配置であることが示された。そして、保育所や保育士にとって、保育所看護師は期待されている存在であるが、期待される役割が多岐に及ぶため、看護専門職者の意義や役割の明確化と普及を推進するとともに、専門職としての地域包括的な連携が必要であると考えられた。

謝 辞

本研究を実施するにあたり、調査にご協力いただきました対象者の方、保育所関係の方々に深謝申し上げます。

本研究は、愛知医科大学大学院看護学研究科に提出した修士論文の一部を加筆修正したものであり、平成22年度中部大学特別研究費（CP）の助成を受けて行ったものである。

利益相反に関する開示事項はありません。

文 献

- 1) 野辺英俊. 保育制度の現状と課題 調査と情報 — ISSUE BRIEF —. 国立国会図書館 2010; 667: 1-11. <http://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/issue/pdf/0667.pdf>, (アクセス日2016-5-14)
- 2) 厚生労働省. 保育所関連状況取りまとめ. 2014-04-01. <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000057750.html>, (アクセス日2016-5-14)
- 3) 厚生労働省. 平成27年人口動態統計月報年計（概数）の概況～死因順位（1～5位）別死亡数・死亡率（人口10万対）、性・年齢（5歳階級）別. <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai15/dl/h7.pdf>, (アクセス日2016-5-14)
- 4) 独立行政法人日本スポーツ振興センター. 学校安全 Web. <http://www.jpnsport.go.jp/anzen/Default.aspx?TabId=822> (アクセス日2016-6-17)
- 5) 内閣府子ども・子育て本部. 「教育・保育施設等における事故報告集計」の公表及び事故防止対策について. 2016-04-18. http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/outline/pdf/jiko_taisaku.pdf (アクセス日2016-6-17)
- 6) 木村留美子, 棚町祐子, 田中沙季子, 他. 保育園看護職者の役割に関する実態調査（第1報）—保育園看護職者の役割遂行状況と看護職者に対する保育士・保護者の認識—. 小児保健研究 2006; 65: 643-649.
- 7) 山本弘江, 西垣佳織, 宮崎博子, 他. 保育所における保育所看護師等の保健活動に対する自信とその影響要因について. 小児保健研究 2016; 75: 63-68.
- 8) 金城やす子, 八田早恵子. 保育園における障害児や医療的ケア児の受け入れと課題 保育園看護職の配置との関連において. 保育と保健 2015; 21: 37-40.
- 9) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局. 平成22年度保育対策関係予算概算要求の概要. http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/09/dl/s0901-4f_0003.pdf (アクセス日2016-6-15)
- 10) 日本看護協会. 専門看護師・認定看護師・認定看護管理者分野別都道府県別登録者数一覧. 2016-06-05. <http://www.nurse.or.jp/>, (アクセス日2016-06-05)
- 11) 片田範子. 小児救急認定看護師の活用と研修プログ

ラムの開発. 小児保健研究 2005 ; 64 : 244-248.

- 12) 野間大路, 渡辺志伸, 土屋さなえ, 他. 兵庫県下の
保育所・幼稚園における事故およびその防止対策の
実態. 兵庫県医師会医学雑誌 2007 ; 50 : 47-52.

[Summary]

This study aims to describe about the specialties expected of nurses by the nursery school's staff related to the health problems. From May to July 2010, we used self-administered investigation for the 634nursery school's staff (working by 44 facilities) in Aichi Prefecture.

The numbers of the analysis was 262 (recovery rate 41.3%). Two hundred eight (79.4%) staff answered non nurses in their nursery school and 194 (75.2%) staff demanded nurse's assignment. They expected

the nurses specialties in 6 categories as "Judgement and action in health management of children", "Reassurance by assignment of nurses", "Safety control and Collaborations in school", "Parental support", "Instructionof health management for children", "mental support for nursery school's staff ". The results of this study show that the school's nurse were few, and there were some disproportion. They were expected existence ; however, it is important to show the role of coming to a variety clearly with spread and collaborateas professionals.

[Key words]

nurse, nursery school's staff, health management, collaboration, specialty